

今号の内容

- 祝 翠清会ニュース第200号達成 ～1993年9月から2014年9月まで～
- 脳卒中における嚥下障害とは ～嚥下と嚥下障害の機序～
- 食事における自助具について
- ふれあい看護体験
- 学会参加記
- 学術活動 7月～9月
- 200という数字からの連想
- 病院機能評価(3rdG:Ver.1.0)の認定を受けました

秋号の花  
コスモス

写真提供:広島県

当院ではWiFi無料インターネット接続サービスがご利用いただけます(地下、屋上を除く)。ご希望の方は受付までお問い合わせください。

## \* 祝 翠清会ニュース第200号達成 \*

\* ～1993年9月から2014年9月まで～ \*

医療法人翠清会 会長 梶川 博



読んでいただいております翠清会ニュースは1993年9月に創刊いたしました。本号で遂に記念すべき200号に達し、創刊から21年間経たことを思うと感無量です。当初は手作りのモノクロ印刷でA4版1頁に、編集長兼記者の梶川咸子(介護老人保健施設ひばり施設長)が独断と偏見で学会便り、人事、結婚、職場の記事を掲載していました。3号からは更にエキセントリックな私が「編集子」として加わり、月1回発刊とし、2001年12月号で100号に達しました(写真)。既にB4版・カラー印刷となっており、さらに2002年1月号(No.101)から一回り大きいA3版にいたしました。

しかし、紙面が大きくなったにもかかわらず「文字が小さくて読み辛い」と広島記念病院中井志郎先生、浜脇整形外科病院濱脇純一先生、NPO法人日本HIS研究センター(BHI)賞事務局公募の院外広報誌部門にエントリーし好評価をいただきました。からご指摘をいただいたことは、今となっては良き思い出となっております。(それなのに頑なに2006年12月号(No.160)までA3版1頁を続けました。)不評であった小さい文字ですが、多くの院内の出来事を記載することができたことから、今となっては貴重な病院情報として当法人並びに当院の歴史を振り返る際にはたいへん役立っております。

2007年から作製(企画、編集、発行の全て)を院内組織である編集委員会及び広報委員会並びに外部の専門業者にバトンタッチし、現在のA3版二つ折り(4頁)となっており、ようやく文字も大きく読みやすくなりました。発行は季刊または隔月刊となり、表紙はタイトル、目次、トップ記事、2頁以降は各部署から疾患、症候、治療等の解説、裏表紙は院内報的に部署・委員会紹介、新任・退任挨拶、学術活動、住所地図等と定着しています。今後も有用な情報を皆様に正確かつ簡明に伝えることをモットーとしながら、更なる充実と隆昌に努めていただき、この種の広報誌や社内報部門のランキングに入るような素晴らしい病院報となることを祈念しております(Be ambitious!)



2001年12月号 ▲